

2022年07月21日

次のスリランカはすぐそこに

Global Times

環球時報

Jul 19, 2022

World needs to be vigilant about crisis triggered by strong dollar

論説「世界はドル高による危機を警戒する必要がある」

<https://www.globaltimes.cn/page/202207/1270945.shtml>

インドのルピー安

今年に入ってから、外国人投資家がインド株を300億ドル近く売却したと報じられた。その中で、インドルピーは火曜日に1ドル80.06円まで下落し、過去最安値を更新した。

この下落は、FRBが予想以上に金利を上げ、ドルを強くした結果起きた。ドル指数（ドルが他の通貨と比較してどの程度強くなったかを示すもの）は、先週、20年ぶりの高値となる108.29まで急騰した。

インドではインフレ率は5月の7.04%、4月の7.79%に対し、6月は7.01%に達した。インドの政策立案者は、ルピー安がより一層のインフレを国内にもたらすとして、自国通貨を防衛するための一連の措置を試みている。しかし、どの対策もドル高の影響を乗り切るには至っていない。

“ドル高は君たちの問題だ”

FRBの積極的な金融政策の結果、通貨安の圧力にさらされているのはインドだけでなく、今や世界中が警戒している。

1971年、当時の財務長官ジョン・コナリーは言った。"ドルは我々の通貨だが、それ(ドル高)は君たちの問題だ" 当時がそうであったように、現在もそうである。

ここ数カ月、各国の通貨、特に新興国の通貨は、大量の海外への資金流出に見舞われている。これは、どの国の金融状況にとっても極めて危険なことである。

中国と日本は、米国債保有額を減少させつつある。この変化は、両国がドル建て資産に対して弱気になっている印象を与える。

米国財務省が発表したデータによると、中国の米国債保有額は5月に9808億ドルに減少した。12年ぶりに1兆ドルを下回ったことになる。米国債の最大の保有国である日本も、5月に米国債の保有額が継続的に減少していることを確認した。保有額は2020年1月以来の低水準となる1兆2120億ドルに落ち込んだ。

しかし、データを精査すると、それは逆のことを示唆しているかもしれない。

というのも、中国の米国債の総保有額はたしかに減少したが、月次の変化で見ると、実際には米国長期証券の保有額を2ドル増やしているからだ。

米国財務省のデータによると、中国は5月に米国長期証券の保有高を26億8900万ドル増加させた。米ドル建ての資産は、今後もしばらくは世界の安全資産の一つであり続けるかもしれない。

新興国にとって脱ドル化が基本目標だ

ドル高の急速な進行は新興国の金融リスクを悪化させている。それでもグリーンバック（米ドル札）は貿易決済において世界で最も重要な通貨であり、変わりやすい市場の中で安全性を求める投資家にとって安全な場所であることに変わりはない。

ドル高は各国の金融リスクやインフレなどの経済問題を深刻化させる。このことは、新興国において脱ドル対策がこれまで以上に急がれることを意味している。通貨スワップや現地通貨建て決済などの方法だ。

といっても、脱ドル化はすぐには実現しそうにない。このため多額の対外債務を抱える国の債務問題への注視がより重要である。

短期債務の安定が急務だ

特に、新興国の短期債務の額は現在、巨大なものとなっている。

例えば、インドの対外債務は約 2670 億ドルである。このうち 40% 近くが今年度中に返済期限を迎えることが、インド準備銀行のデータで明らかになっている。

過去にも短期債務による危機は少なくなかった。

タイで急激な通貨安を引き起こし、1997 年のアジア金融危機を引き起こしたのも短期債務危機である。

もし FRB のタカ派的な政策が他の市場から米国に資本を誘引し続ければ、これらの市場は金融の混乱で悲惨な目に遭うことになるだろう。

次のスリランカはすぐそこにあるのかもしれない。世界は警戒を怠らない必要がある。